

訪看情報メール便

「今が幸せ」家族の思いが 看学生のところを動かした瞬間

訪問看護ステーション 堀内 佳代子

先日、大学の卒業研究のため実習に訪れた看護学生が、その研究報告に来ました。研究は、胃瘻造設^{いろろう}し在宅生活する利用者様のご家族に、胃瘻造設に至る経過や現在までの気持ちの変化をインタビューし、今の介護生活を前向きに受け止めるには医療者はどうかかわるべきかを考える内容でした。

彼女は夏休みも返上し、3か月間繰り返しインタビュー内容を振り返ったそうです。そして、伺ったご家族が「胃瘻をつけてでも生きててくれてよかった」「笑ったり、反応があるから後悔してない」「介護が日常」と言われたその背景には、私たち訪問看護師との信頼関係が築かれていることや、その時々に変化する心情を察し、思いに気付き、受け止め、ともに思いを前向きなものとして考える姿勢があったからこそ、生活があると強く感じたそうです。

大学生活の中で、最も実のある実習だったと充実した表情で語ってくれました。彼女はこの3月に卒業し、病院経験を積んでいずれ訪問看護師になりたいと言ってくれました。

私たちの日頃の看護が評価された瞬間でもありました。そして「今が幸せ」と話してくださった利用者さまのご家族にも感謝します。

☎052-911-2421

北医療生協訪問看護ステーション